

文部科学省 要望枠10項目の主な内容

(単位：億円)

項目及び主な内容	要望額	パプコメの 事業番号
1 安全で質の高い学校施設の整備 児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の応急の避難場所である学校施設について、耐震化を中心とした安全性の確保等を図る ○公立学校施設整備 ・耐震化等の更なる推進のため、補助メニューの統合や事務手続きの簡素・合理化など現行制度の見直しを行い、地方にとってより使い勝手の良い新型交付金を創設し、地方公共団体の要望に沿った計画的な整備を推進する ○国立大学法人等施設整備 ・喫緊の課題である施設の耐震化を推進し、安全で環境に優しい教育研究環境を確保(約4万㎡)	1,898	1901
2 未来を拓く学び・学校創造戦略 情報通信技術を活用した教育の可能性に関する実証研究や、学校と地域の新しい共助の在り方の検討などを行う ○学びのイノベーション事業 ・子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び、子ども同士が教え合い学び合う協働的な学びを創造するため、デジタル教科書・教材や教育支援システムなどの在り方等、教育面での様々な課題について実証検証を行う ○「新しい公共」型学校創造事業 ・学校と地域の新しい共助の在り方の検討を行い、コミュニティ再生の拠点となり得る「新しい公共」型学校(地域コミュニティ学校)のモデルの構築等を行う	20	1902
3 小学校1・2年生における35人学級の実現 新・教職員定数改善計画[平成23～30年度までの8ヵ年計画(改善総数:51,800人(少人数学級推進分)]の初年度分として、小学校1・2年生で35人学級を実現するため、8,300人の教職員定数の改善を図る ・小学校1・2年生の35人学級の実現 7,800人 ・35人学級の実施に伴う教職員配置の充実 500人	2,247	1903
4 学習者の視点に立った総合的な学び支援及び「新しい公共」の担い手育成プログラム 高校段階において授業料以外の教育費負担軽減を図るとともに、大学生等に対する無利子奨学金の大幅拡大、授業料減免の充実等を図り、学習者の視点に立った学校段階に応じたきめ細かい支援を切れ目なく行う ○高校生に対する給付型奨学金事業の創設 ・低所得世帯の生徒(年収約350万円未満:約50万人)に対する給付 ・特定扶養控除見直しに伴って負担増となる生徒に対する給付 ○大学生等への総合的な経済支援プログラムの展開 ・大学生等の立場に立った段階に応じたきめ細かい支援を実現するため、経済的な理由で学業をあきらめないための支援を拡充する ◆無利子奨学金の大幅拡大 -貸与人員34.9万人→38.6万人(3.7万人増)※前年度増員数の約8倍 -残存適格者の解消(学部等:2.3万人増、大学院:0.3万人増)	1,331	1904

	<p>-学力基準の緩和(成績上位1/3から2/5へ〈5ヵ年計画:1年目は0.65万人増〉)</p> <p>-大学院生の業績優秀者免除制度の拡大(0.9万人規模 (3割)→1.2万人規模(4割))</p> <p>◆授業料減免や学生の経済的支援体制等の充実</p> <p>【国立大学】</p> <p>免除率:6.3%→8.4%(博士課程:12.5%)</p> <p>免除者数:約3.7万人→約4.8万人</p> <p>※ 今後3年間で授業料免除率を過去最大水準(12.5%(博士課程は25%))まで段階的に引上げ</p> <p>【私立大学】</p> <p>免除率:約1.5%→約2.0%</p> <p>免除者数:約3.3万人→約4.1万人</p>		
5	<p>「強い人材」育成のための大学の機能強化イニシアティブ</p> <p>持続可能な成長を担う若年層や、知的創造性(知恵)(ソフトパワー)の育成を図るため、成長の土台となる教育研究の基盤を強化するとともに、成長を牽引する教育拠点形成を支援することにより、大学を核とした成長サイクルを形成</p> <p>○成長の土台となる教育研究基盤強化事業</p> <p>◆国立大学の教育研究基盤強化</p> <p>世界最先端の教育研究の推進、メディカル・イノベーションを担う大学附属病院の機能強化、きめ細かな学生支援等を図る</p> <p>-新成長戦略の実現に資する新たな教育研究プロジェクトの推進</p> <p>-世界最先端の研究を支える大学共同利用機関の新たな事業展開</p> <p>-メディカル・イノベーションを担う国立大学附属病院の教育研究体制の充実強化</p> <p>-サポート体制の強化による教育研究設備の有効利用の促進 (「設備サポートセンター(仮称)」の整備)</p> <p>-特別なニーズを抱える学生の受入れ支援強化</p> <p>◆私立大学の教育研究基盤強化</p> <p>新成長戦略を踏まえ、成長分野で雇用に結びつく人材の育成、社会人学生の組織的な受入れや、大学ガバナンス強化への支援などにより、私立大学のマネジメント改革を伴った組織的な取組の定着を図る</p> <p>○成長を牽引する教育拠点形成事業</p> <p>・高い国際感覚を備えた人材と、卓越した専門性を備え世界を牽引するリーダーを養成する拠点を形成し、成長を力強く牽引</p> <p>◆博士課程教育リーディングプログラム</p> <p>国内外の優秀な教員と学生を結集し、産業界との連携の下で、国際標準の博士課程教育を実施する「リーディング大学院」の形成を支援し、成長分野などで世界を牽引するリーダーを養成する(20件)</p> <p>◆大学の世界展開力強化事業</p> <p>「キャンパス・アジア」構想の牽引役となる交流拠点の形成や米国等の大学との協働教育プログラムの開発を支援する</p> <p>-「キャンパス・アジア」中核拠点支援(20件)</p> <p>-米国大学等との協働教育創成支援(10件)</p> <p>◆学生の双方向交流の推進</p> <p>「大学の世界展開力強化事業」に選定された大学等に、学生の交流経費を措置することで、日本人学生とアジア・米国等の双方向支援を推進 (派遣・受入れとも7,000人(米国2,000人、中・韓2,000人、その他諸国3,000人))</p>	1,200	1905
6	<p>成長を牽引する若手研究人材の総合育成・支援イニシアティブ</p> <p>成長の原動力である若手研究人材に対し、挑戦の原資と取り巻く環境の両面か</p>	484	1906

らサポートをすることで、新しい視点と柔軟な発想を生み出す若手研究人材を最大限活かし、世界に誇る「元気な日本」の復活を導く

○挑戦の原資のサポート(その1)：量の先細り問題の解決

- ◆若手研究者のチャレンジを支援する科研費の改革
- ◆特別研究員事業（PD）の拡充
- ◆特別奨励研究員事業の創設
- ◆理数学生育成プログラムの創設（要望額2億円）

○挑戦の原資のサポート(その2)：内向き思考の打開

- ◆頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣事業の創設
未開拓の課題に挑戦する若手研究者の組織的・戦略的な海外派遣を支援
- ◆戦略的国際科学技術協力推進プログラムの拡充
世界の研究者と国際共同研究で切磋琢磨できる機会を提供

○取り巻く環境のサポート：劣悪な環境の改善

- ◆リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備
研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーター）を雇用・育成する大学等の支援、スキル標準の策定、全国的な研修プログラム、及びネットワーク構築など全国的なシステムを整備
- ◆テニュアトラック普及・定着事業の創設
新たなキャリアパスとして、テニュアトラック制（公正に選抜された若手研究者が、安定的な職を得る前に自立的研究環境で経験を積む仕組み）を位置づける大学等を支援
- ◆女性研究者研究活動支援事業の創設

7 元気な日本復活！2大イノベーション

787

1907

我が国の強みを活かす成長分野であるライフ、グリーンについて、イノベーションの創出を加速し、元気な日本を復活させる。ライフについては、社会的ニーズの高い再生医療やがん等のテーマに重点化し、難病克服と国際競争力強化による成長を図る。また、グリーンについては、人材力と知力を結集し、革新技术開発から実証、国際展開までを一貫して強化するなど、新市場の創出と獲得を目指す。さらに、これらを支えるプラットフォームとして、次世代スーパーコンピュータ「京」を中核とし、全ての利用者にかかれた世界最先端研究環境を提供するとともに、「明日に架ける橋」プロジェクトにより基礎研究の成果を着実に成長に結びつけるシステムを構築し、健康大国、環境・エネルギー大国を実現

○健康社会と成長を実現するライフ・イノベーション加速計画

- ◆再生医療の実現
- ◆次世代がん医療の実現
- ◆心の健康のための精神・神経疾患の克服

○“グリーン・ナレッジ・イニシアティブ”(緑の『知』結集計画)

- ◆大学発グリーン・イノベーション創出事業
大学が有する教育・研究から実証・国際展開までの幅広いポテンシャルを活用
 - ◇「グリーン・ネットワーク・オブ・イニシアティブ(GRENE)」事業<技術と人材の国際競争力強化>
 - ◇「緑の知の拠点」事業<大学のキャンパスを活用した新技術の総合的な実証>
 - ◇「緑の絆」事業<国際的人材ネットワークを活用した産学連携による技術の国際展開>
- ◆温室効果ガスを削減する革新的技術開発の加速等
- ◆海洋資源探査システムの実証

○イノベーション創出の基盤となる最先端研究環境の構築

- 革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）の構築-
ライフ及びグリーン・イノベーション等のイノベーション創出の基盤となる最先端研究インフラとして次世代スーパーコンピュータ「京」を中核とし、多様なユーザーニーズに応える革新的な計算環境を実現するHPCIを構築するとともに、その利用を推進

<p>○「明日に架ける橋」プロジェクト(研究開発における民間資金の活用方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研究成果最適展開支援事業(事業化ファストラック・システム) ◆橋渡し研究加速ネットワークプログラム 		
<p>8 我が国の強み・特色を活かした日本発「人材・技術」の世界展開</p> <p>我が国が強み・特色を有する先端科学技術分野(宇宙分野、原子力分野、重粒子線治療分野)において、「人材と技術」をパッケージとして活用し、我が国の技術・インフラ・システム輸出に貢献</p> <p>○我が国の宇宙技術の世界展開</p> <p>—最先端宇宙科学・技術と人材育成をセットにした新たな海外展開戦略—</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆【戦略1】ブランド力を育てる <ul style="list-style-type: none"> 「はやぶさ」、「イカロス」、「HTV」の技術を発展させ、我が国の宇宙技術の高さを海外にアピールするとともに、宇宙人材の裾野拡大、新たな世界市場の獲得を目指す ◆【戦略2】ニーズに対応した宇宙システム/アプリの提供 <ul style="list-style-type: none"> 防災、環境監視、国土管理や資源管理等の実利用に資する宇宙システムとアプリケーションの一体的開発、実証、利用を推進し、国際的に展開 ◆【戦略3】技術を使う人を育てる <ul style="list-style-type: none"> 我が国の宇宙技術の世界展開に向けた能力開発・人材育成とのパッケージ化 <p>○高度な3S「人材・技術」を活かした日本発原子力の世界展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆【戦略1】3Sを根付かせる <ul style="list-style-type: none"> (安全(Safety),核不拡散(Safeguards),核セキュリティ(Security))人材育成やネットワーク構築、技術支援により新規導入国を含めグローバルな核不拡散・核セキュリティの強化を支援 ◆【戦略2】原子力導入に不可欠な技術基盤の構築・提供 <ul style="list-style-type: none"> ・放射性廃棄物減量化・低コスト化の技術の実用化 ・10年以内を目処に廃棄物の処分に至るまでの一連の技術基盤を提供 ◆【戦略3】世界展開に向けた人材育成・技術移転 <ul style="list-style-type: none"> 民間企業等との連携を強化し、内外の原子力人材を育成 <p>○日本発の重粒子線がん治療技術の高度化・海外展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆【戦略1】我が国発の重粒子線がん治療方式のデファクト化 <ul style="list-style-type: none"> 外国人研究者・医師等の戦略的人材育成等により、放医研治療方式を国際標準化 ◆【戦略2】次世代治療システムの開発・実用化によるがん患者QOLの圧倒的改善 <ul style="list-style-type: none"> 最先端技術の開発により、正常臓器を傷つけない照射法、治療時間の極小化等を実現し、他国の追随を許さない国際競争力を保持 ◆【戦略3】第3世代小型汎用システムの開発に向けた戦略的研究 <ul style="list-style-type: none"> 更なる小型化、標準医療化に向けた戦略的調査研究を実施 	448	1908
<p>9 元気な日本スポーツ立国プロジェクト</p> <p>トップアスリートの育成・強化とその拠点クラブへの配置を一体的に推進することにより、人材の好循環を実現し、スポーツ立国戦略を推進する</p> <p>○スポーツコミュニティ形成促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート等を配置した拠点クラブを育成(目標300ヵ所)し、地域スポーツを支援 ・アスリート等を「小学校体育活動コーディネーター」として学校に派遣することなどを通じて「新しい公共」を担うコミュニティの形成を促進(66ヵ所) <p>○マルチサポートを通じたトップアスリートの育成・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医・科学を活用したトータルサポートの実施 ・日本の科学技術を活かした最先端の競技用具等の研究開発 ・女性のライフサイクルに着目し、男女の性差を踏まえた最適トレーニング法やコーチ 	54	1909

<p>ングなどの研究開発を通じて、トップアスリートの能力を最大限に引き出し、国際競技力の向上を図る</p>		
<p>10 文化芸術による日本元気復活プラン 創造的な人材育成による産業育成・雇用創出、貴重な文化遺産の活用による観光振興・地域活性化や我が国の優れた文化芸術の海外への発信など、我が国の強みである文化芸術を経済成長のために最大限活用</p> <p>○文化芸術による次世代人材育成プロジェクト 先端的メディア技術に対応できる若手クリエイター育成や分野の枠を超えた育成公演など戦略的な新進芸術家の育成、一流の文化芸術団体や芸術家を活用した創造性豊かな子どもの育成により、創造的な産業育成と新たな雇用を創出※次代を担う子どもの文化芸術体験事業約4,000件</p> <p>○文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 重要文化財等の公開活用、史跡等の復元・公開、地域に伝わる伝統芸能等の継承・公開など、地域の特色ある総合的な取組を積極的に支援し、地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化を推進</p> <p>○クリエイティブ・ニッポン発信！プロジェクト 東アジアの文化芸術会議の開催、中核的な国際芸術フェスティバルや各地域の特色ある国際文化交流事業に対する支援により、文化芸術発信の国際的拠点形成を推進する</p>	<p>158</p>	<p>1910</p>
<p>合計（10項目）</p>	<p>8,628</p>	